



NODA MAKIKO
Human Delight 株式会社 代表取締役

野田万起子

静岡県生まれ。1993年にベンチャー・リンクに入社し、執行役員や取締役を経てMEBOで独立。2010年設立のHuman Delightを主軸に、上場企業の社外取締役を歴任し地方創生を支援。神奈川ニュービジネス協議会副会長として、ニュービジネスも支援している。

地方から東京への人口流出を断つ、 「幸せ軸」の経営で地域の未来をつくる。

「地方創生」を国が掲げる以前から、本格的な取り組みを現場で実践してきた経営者が、Human Delight 株式会社代表取締役の野田万起子氏だ。自治体ごとの課題に向き合い、人が地域に根ざして働き続けられる仕組みを築いてきた。

地 方の課題の多くは、「人口減少」と「東京一極集中」に由来するが、処方箋は自治体ごとに異なる。しかし、国の施策が始動した後、全国1700以上の自治体が策定した総合戦略は、その多くが似通っていた。借り物の雛形では実らないことを現場で痛感してきた野田氏のアプローチは、その対極にある。まずは自治体に歩み寄り、課題の本質を掘り当ててから、解決策を個別に組み立てていくというものだ。

実践段階では行政と中小企業、大学、金融機関という「官・民・学・金」をつないで動かす。シティブロモーションの企画、地域のビジネスコンテスト、女性起業家育成講座。県から市町村まで、規模を問わず自治体のプロジェクトを回す。ふるさと納税プラットフォームがまだベンチャーだった時代に、全国の自治体を東京に集める「ふるさと納税大感謝祭」を第1回から企画運営したのも野田氏だ。こうした活動の原点には、か

つて地方の課題と同じ道を辿っていたという、野田氏自身の苦い自覚がある。

「私自身が、負のロールモデルそのものだったんです」。静岡市で生まれ育ち、東京の大学へ進んだ。周囲の8割がそのまま就職し、地元には帰らない。野田氏も例外ではなかった。進学も就職も、疑いなく選んだ道だ。だが、その当たり前こそが、地方の人口を削る構造に他ならなかった。

1993年、女性総合職がまだ狭き門だった時代に、無名だったベンチャー・リンクへ入社。全国の地銀や信用金庫と組んで、中小企業を支援するため、各地の経営者と対談を重ねていく。26歳で47都道府県すべてを訪れた日々が、地元への見方を覆していった。

「地方にいい会社なんてない」と思い込んでいました。ですが、実際に各地を回って経営者の話を聞いてみると、地域に根ざして挑戦を続ける素晴らしい会社が多くある。私たちが知らなかっただけだと気づきました」。その後、ベンチャー・リンクは東証一部に上場し、野田氏は女性初の役員に就いた。経営が揺らいだ2011年には、MEBOで金融機関ネットワーク事業を切り出し、インクグロウ社長として独立した。

Human Delight の設立は、その3カ月前に遡る。住民票も静岡へ移していた。地元へ税を納め、雇用を生むという、ライフワークの器を先に用意していたのだ。インクグロウを軌道に乗せて後進に託すと、地域の現場へ軸足を移した。

株価のために業績を上げ、業績のためにノルマを課す。いったい会社は誰のためのものか？ 思案した野田氏が行き着いたのは、「幸せ軸」の経営だ。

「一人ひとりが『自分の人生は幸せだ』と思える軸がなければ、会社は続きません」。

野

田氏のこの理念は、一企業の経営論に留まらない。人が地域に根ざして生き働き、幸せだと思える。それが叶って初めて人口は増え、地方は存続するという考え方が、活動のベースとなった。

要とするのは女性だ。女性が地域を離れば、少子化は加速する。野田氏は女性起業家の支援と、企業における女性幹部の育成を2本柱に据えている。

根底には当事者としての体験がある。妊娠を上司に報告すると「おめでと〜」と祝われ、翌月、課長へ昇格した。産休か、それともキャリアか。両者を天秤にかけられることなく、機会を与えてくれた。心のギアが跳ね上がる瞬間だったという。

CHALLENGER

The
Extra Edge
世の中のトレンドをリードする
話題のモノ、ヒト、コトなどを紹介

「結婚すれば辞めるもの、育児に入れば退くもの。それが女性の幸せだと語られてきました。が、もはやそんな時代ではありません。頑張りたい女性の芽を摘まずに花咲かせたいのです」。えに打ち手は具体的だ。

ゆ

社外取締役を務める企業には、「私が退任するまでに生え抜きの女性役員を」とリクエストし、「幸せ軸」を掛け声で終わらせないための挑戦も始めている。その一例が、内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム。筑波大学の久野譜也教授が率いるプロジェクトに参画し、女性活躍を主軸としたウェルビーイング（心身の健康と幸福）指標の社会実装に取り組んでいる。企業を診断して数値で示し、課題を掘り起こし、改善策を定着させるというものだ。

地方銀行と組んだ指標の実証も進行中。財務諸表に表れない物差しで中小企業の持続可能性を測ることができれば、融資にも関係強化にも繋がる、地域金融の新しい役割を生むことができるだろう。

今秋には、全国から経営者が集う「JNB新事業創出全国フォーラム」を、実行委員長として支える。ひとりのリーダーが牽引する時代は終わった。経営者同士が悩みを明かし合える場から、連携と共創は生まれる。野田氏は、次の世代の道筋づくり、今後10年を懸けるといふ。人が根ざし、幸せに働ける地域へ。Human Delightという社名には、「人に輝きを」という思いが込められている。